

令和7年7月11日

各 位

高知県水産試験場長

水産用抗菌剤に耐性をもつ α 溶血性レンサ球菌について

平素は本県の水産研究にご協力をいただきお礼申し上げます。

さて、 α 溶血性レンサ球菌症については、Ⅰ型、Ⅱ型及びⅢ型の3種類の血清型が存在し、本県ではこれまでのⅠ型、Ⅱ型に加え、令和4年にカンパチにおいてⅢ型の発生が確認されております。このうちⅠ型及びⅡ型については、従来の水産用ワクチンによる予防効果が期待できますが、Ⅲ型については、本年5月12日に新たに水産用ワクチンの販売が開始されたばかりであり、養殖現場への普及が十分な状況ではないことから、予防が困難な状況となっております。

さらに、本年、県内養殖場において、現在レンサ球菌症の治療薬として承認されている水産用医薬品（エリスロマイシン、塩酸リンコマイシン、塩酸ドキシサイクリン、アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン、フロルフェニコール）のいずれに対しても耐性を示す多剤耐性Ⅲ型 α 溶血性レンサ球菌が検出されました。

この菌が養殖場で蔓延した場合、すでに α レンサ球菌症用のワクチンを接種済みの養殖魚でも十分な予防効果が得られないだけでなく、不適切な投薬によりさらなる耐性菌の発生を助長し、被害が拡大する恐れがあります。

そのため、レンサ球菌症が疑われる事例が発生した場合は、むやみに投薬をせず、水産試験場での魚病診断と薬剤感受性の確認を徹底していただくよう、お願いいたします。